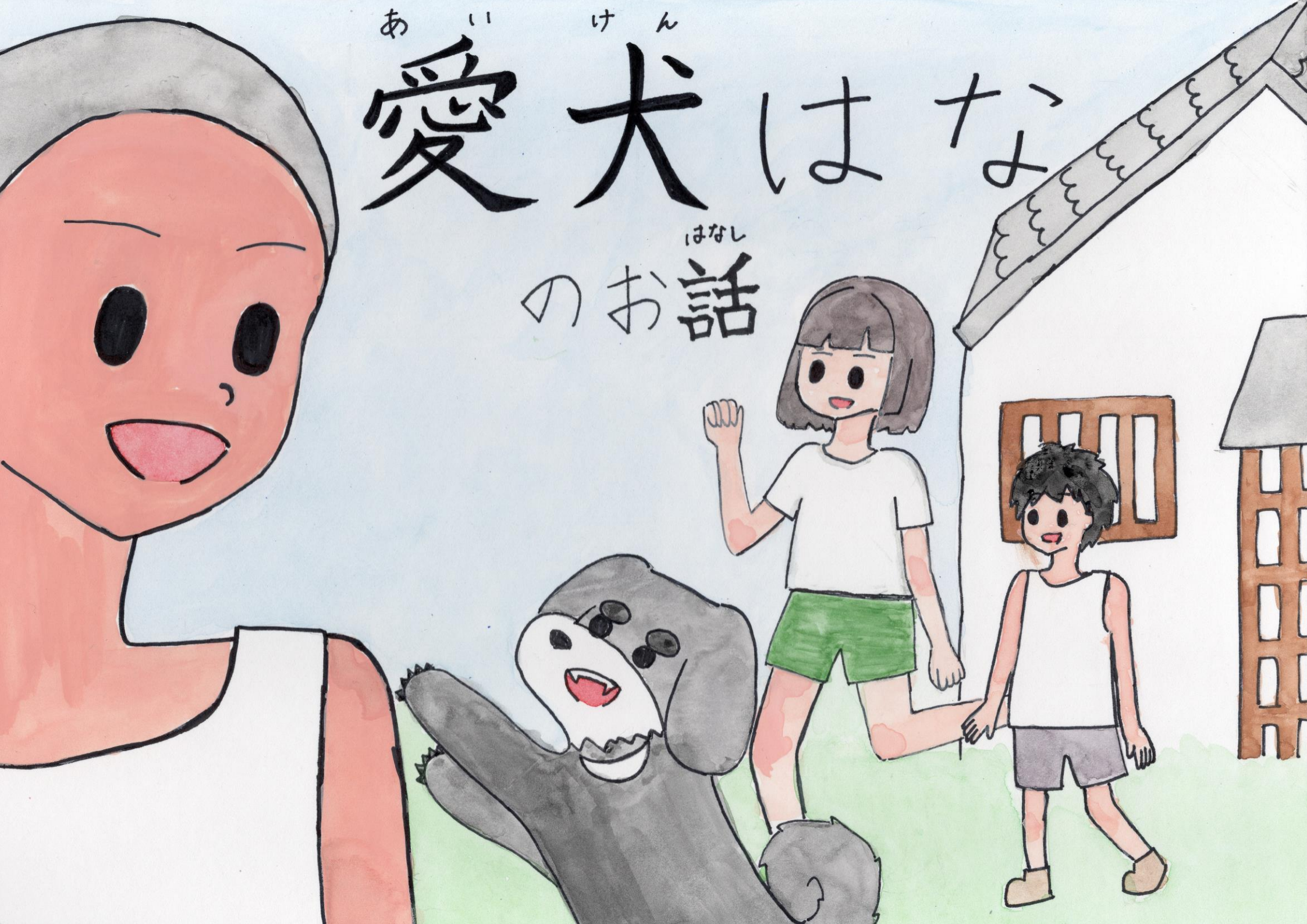


あ い けん
愛犬はな

はなし
のお話



「愛犬^{あいけん} はなのお話^{はなし}」とは、・・・

祖父^{そふ}から、日本^{にほん}が戦争^{せんそう}をしていた頃^{ころ}の体験談^{たいけんだん}を聞き^きました。

それは、昭和^{しょうわ} 17年^{ねん}のこと。

祖父^{そふ}が 子どもの頃^{ころ}に飼^かっていた犬^{いぬ}が、突然^{とつぜん} 見知らぬ^{みし}「犬^{いぬ}とりのおじさん」に
連れて行^つかれたという話^{はなし}です。

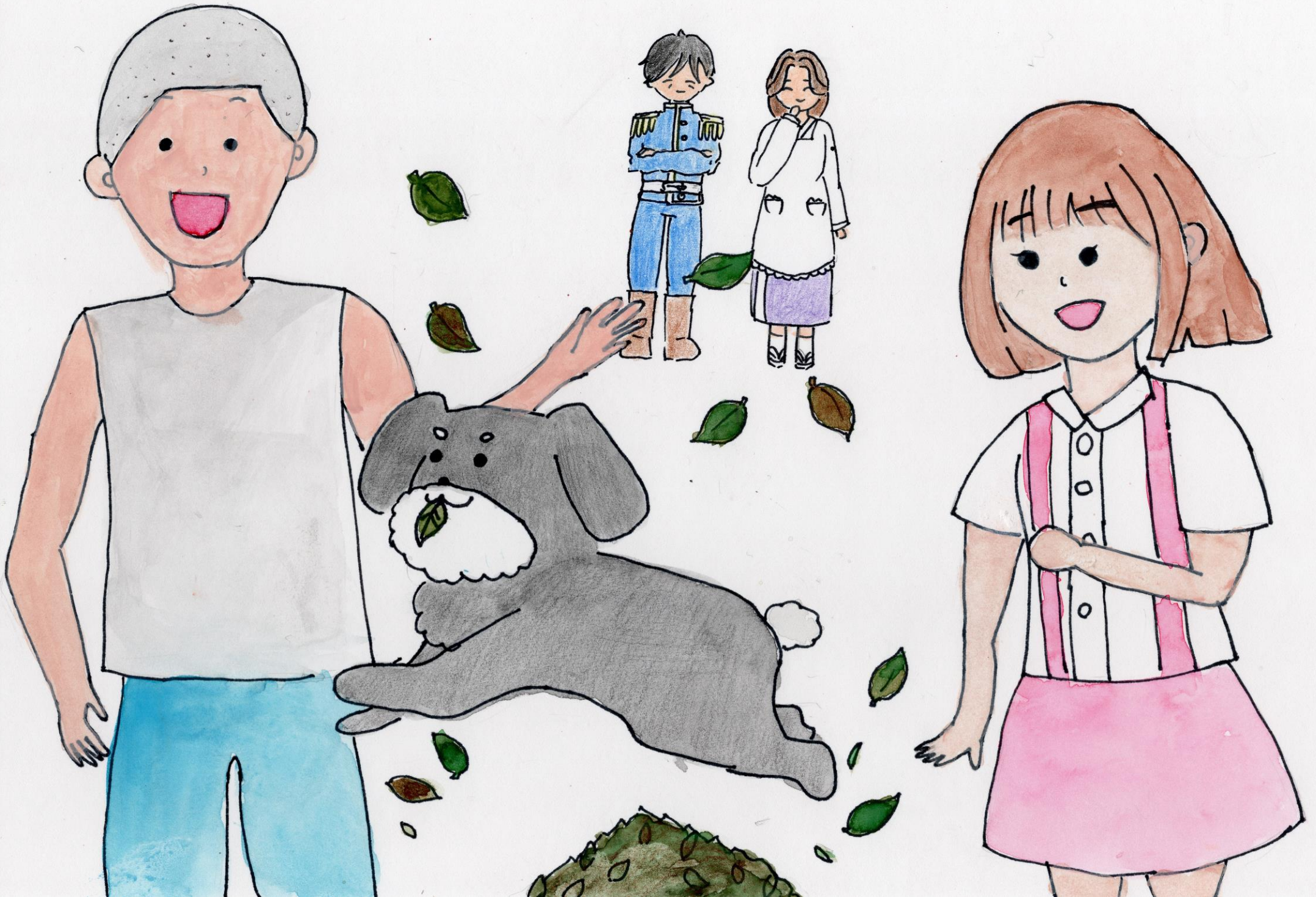
祖父^{そふ}が飼^かっていた犬^{いぬ}の名前^{なまえ}は、「はな」。

家族^{かぞく}みんなで、とてもかわいがっていた犬^{いぬ}でした。

日本^{にほん}が太平洋戦争^{たいへいようせんそう}に 突^つき進^{すす}んだ頃^{ころ}から、「兵隊^{へいたい}さんのために 犬^{いぬ}を差^さし出^だすように」と、

リヤカー^ひを引^ひいて 犬^{いぬ}を集^{あつ}めるおじさん（犬^{いぬ}取り）が、現^{あらわ}れたそうです。

ちょっとかわいそうなお話^{はなし}ですが、たくさん^{ひと}の人に知^しってほしいと 絵本^{えほん}にしました。



いもうと
妹

「はなちゃんは、葉っぱが好きなんだね。

いつも葉っぱを、集めてくるね。」

ぼく

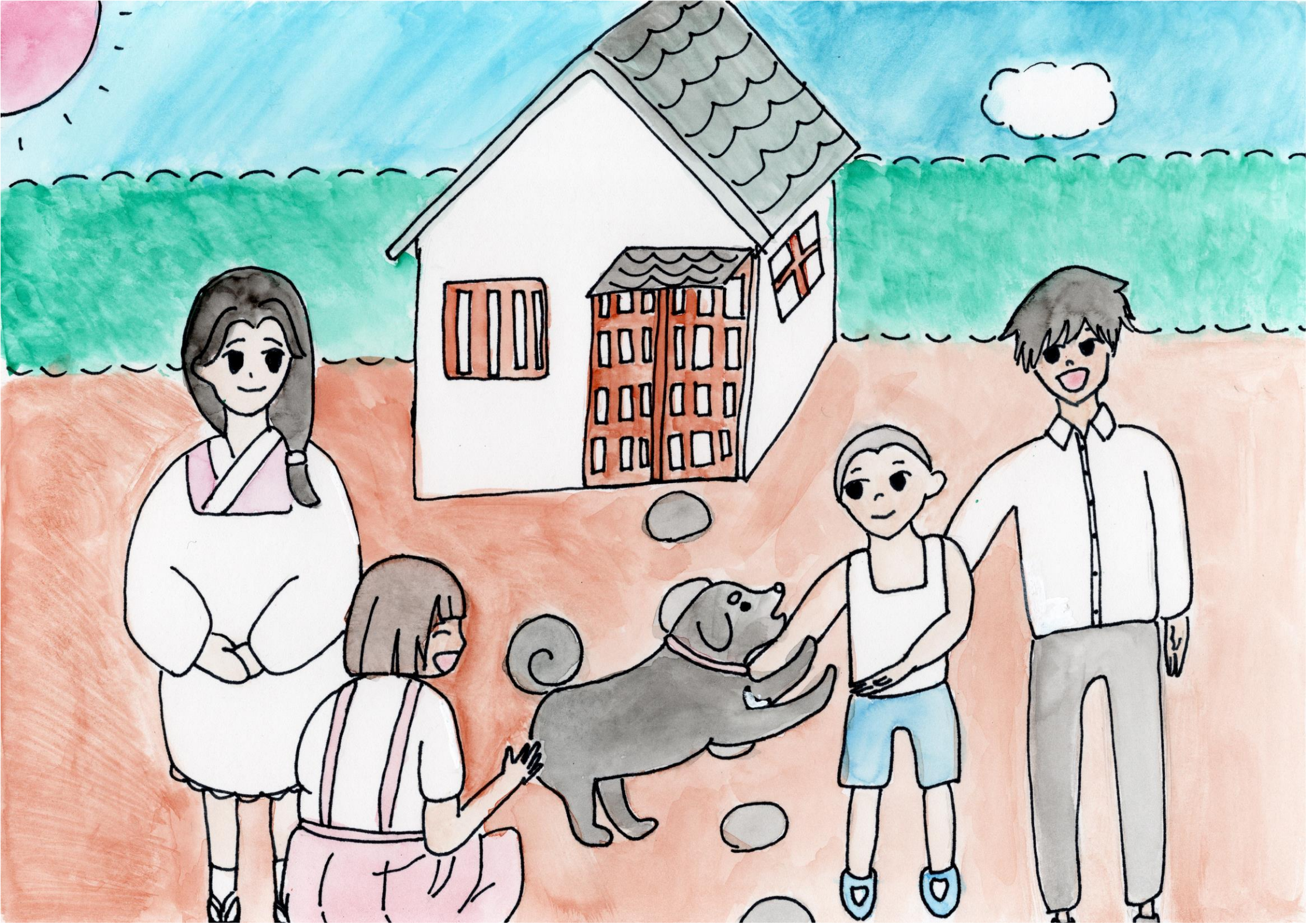
「犬小屋のまわりは、葉っぱだらけで、掃除がたいへんだよ。」

はは
母

「お掃除、頼んだわよ〜。」

ぼく

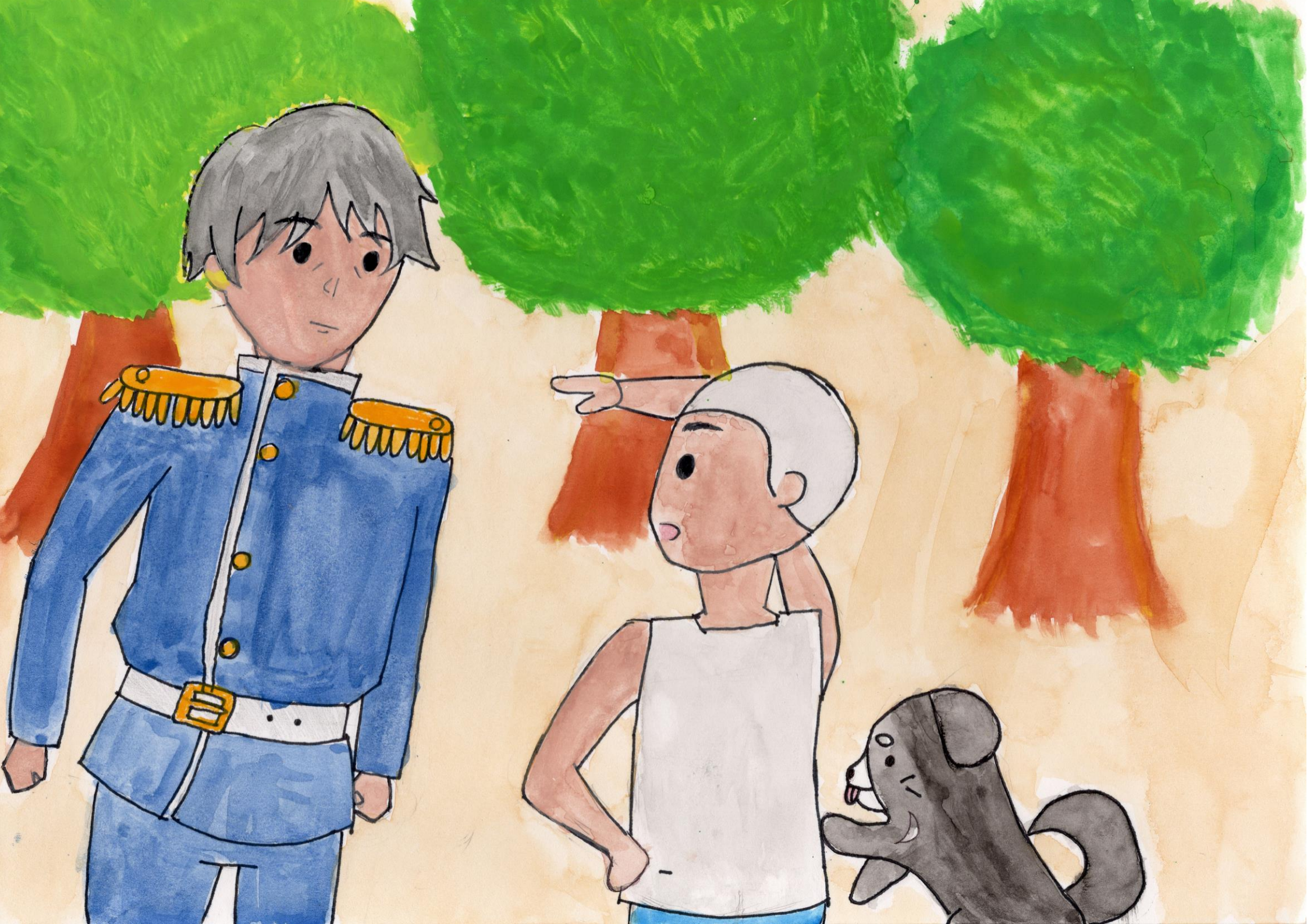
「はい。」



戦争せんそうが始はじまってすぐの頃ころは、生活せいかつは苦くるしかったけれど、
わたしには、若わかい父ちちと母ははと、小ちいさな妹いもうとがいて、家か族ぞく4人にんで、
幸しあわせな毎まい日にちをおく送おくっていました。

愛あい犬けん「はな」は、家いえの周まわりで放はなし飼がいにしていました。

「はな」は、近きん所じょのこども達たちの人にん気き者もので、みんなにかこ囲かこまれ、
それはそれはにぎやかな毎まい日にちでした。



つきひ ^{なが}は流れて、^{ちち}父が^{へいたい}兵隊として ^{せんち}戦地へ^{むか}向います。

^{ちち}父の ^{わたし}わたしへの^{さいご}最後の^{ことば}言葉は、・・・

父 「^{かぞく}家族のこと、そして^{いぬ}犬の“はな”のことを、しっかり^{たの}頼んだぞ。」

ぼく 「はい。お^{とうさま}父様！ ^{かぞく}家族のために^{はたら}働きます。“はな”のことは、
^{まか}任せてください。しっかり^{せわ}世話をして、かわいがってやります。」

この^{ころ}頃、^{せいぎかん}正義感だけは ^{だれ}誰にも^ま負けなかった わたしは、その^{ことば}言葉を^{むね}胸に、
^{いえ}家の^{しごと}仕事を、^{いっしょうけんめい}一生懸命 ^{てつだ}手伝いました。